

教科目名 卒業研究 (Graduation Research)

学科名・学年 : 土木工学科 5年

単位数など : 必修 16単位 (前期6コマ, 後期7コマ, 学習保証時間 273時間)

担当教官 : 都市システム工学科全教官

授業の概要		
<p>高専で修得した学習の集大成として卒業研究を実施する。以下に示す土木教官の研究内容から希望する教官を選択する。その際、各教官に所属できる学生は全学生数を全教官数で割ったおおよその人数とするので、全員が希望する教官につけるとは限らない。</p> <p>島田 晋：都市における水環境 河川および河口における水質汚濁</p> <p>園田敏矢：TLD (Tuned Liquid Damper, 同調液体ダンパー) の制震効果について 土木構造物の振動特性 (固有振動数、振動モード) について</p> <p>亀野辰三：街路樹デザインに関する景観評価について 住民参加型美化活動, 特にアダプト・プログラム効果と評価 交通渋滞対策, 特に TDM の社会・経済効果と評価について</p> <p>佐野博昭：化学的風化作用を受けた酸性堆積軟岩法面の長期安定に関する研究</p> <p>相川 明：多角形粒状集合体の動的破壊挙動特性に関する研究 社会的環境と鉄道技術の適応と技術革新に関する研究</p> <p>一宮一夫：高流動コンクリートの表面気泡の発生メカニズムと低減方法 産業副産物のコンクリート用材料への適用性 コンクリート用化学混和剤の性能評価</p> <p>工藤宗治：短繊維混合による火山灰質粘性土の力学特性の改善 高分子吸収材による軟弱土の力学特性の改善</p> <p>東野 誠：水・底泥間での溶存酸素, 栄養塩等の移動過程に関する研究 河川, 湖沼, 貯水池等の水域における水質変化過程に関する研究 河口干潟の環境特性に関する研究</p> <p>高見 徹：海藻を供試生物とした下排水の毒性評価 番匠川河口干潟の環境特性 高炉スラグ混入根固ブロックによる河床付着藻類の増殖効果</p> <p>中野友裕：RC 連続高架橋の全体系 3次元地震応答特性の評価 Flexibility 法による構造解析手法の確立 広域地盤 - 構造物の地震時連成挙動</p>		
到達目標 大分高専目標 (C1) (D1), JABEE 目標 (d2b) (d2c) (e) (f) (g) (h)		
<p>(1) 研究に対する資質を身につけること。 (2) 研究報告書作成の資質を身につけること。 (3) プレゼンテーションの資質を身につけること。</p>		
月	授 業 項 目	内 容
4月	1. ガイダンス, テーマ説明 2. 研究課題の決定 3. 研究開始	各指導教官研究室への配属は, 学生の希望とこれまでの学習成績によって決定する。 研究課題と研究計画については, 指導教官と相談の上で決定する。学生自身の主体的な取組みが重要である。
12月	4. 中間報告会	中間報告会は研究内容を他者に伝える技術を身につけること, 研究の方向性や方法についての他者からの助言や批判により, 研究の内容を充実するために実施される。
2月 3月	5. 卒業研究諮問 6. 卒業研究発表会	最終的な諮問による審査 優秀と認められた研究は 4, 5年生を対象に発表する。
履修上の注意		
教科書		
参考図書		
関連科目		
評価方法		
後期に中間報告会, 学年末試験終了後に卒業研究諮問が行われる。また, 中間報告会では中間報告書, 諮問では 8 ページ以上の卒業研究報告書と 2 枚の卒業研究概要を提出する。これらの提出物と諮問を受けて審査に合格したものが単位認定される。		